



# 第30号

2017年9月1日

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



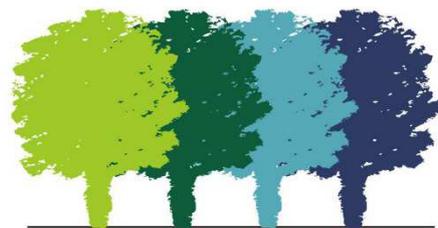
よしほり かも 絵・井上 忠司

愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングにはまり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

## 幸樹会マーク、決まりました

幸樹会のマークが決まりました。作成をお願いしたインテリア・家具デザイナーの吉川昭さんが、医療福祉施設の持つ堅苦しさをなくし、優しく温かい雰囲気づくりの「いろどり」にと、考えてくださった数種の中から理事会で選定したものです。

幸樹会設立のときに名称でイメージとした広葉樹の森、リズムカルでカラフルな躍動感を表現したものが選ばれました。長く使いつづけていきたいと思ひます。（中野三代子）



一般社団法人

# 幸樹会

# 笑顔いっぱい！夏まつり



## 第10回地域交流カフェ

8月22日（火）、第10回地域交流カフェ「夏まつり」が行われました。

看多機さんしょうのリビングが、利用者の皆さんと職員が協力して作った「ちょうちん」や輪つなぎで飾り付けられ、ポップコーンのはぜる香りや綿あめの甘い香り、焼きそばを焼く匂いでいっぱいになりました。思わず心は子供のころに戻ってしまい、ウキウキ。お客さんもたくさん来てくださいました。利用者さんもお客さんも「何を食べようかなあ…」と出店ブースをまわります。出店は「勝浦産天草を使った手作りところてん」「カキ氷」「アメリカンドック」「焼きそば」「枝豆」「たこ焼き」「ポップコーン」「綿あめ」いっぱいあって迷ってしまいます。子供さんの参加もあり大賑わい。「ヨーヨー釣り」は難しい！取れなくても大サービスでもらえます。何回も挑戦して、いくつも手に持って、にこにこ。職員の出し物「よさこいソーラン」や踊れる人も踊れない人も輪になっての「盆踊り」、子供たちのスイカ割りもあり、最年少では1歳半のちびっ子が参加。見事に当たって大成功でした。

河原塚に住む内中偉雄さんによる「からくり人形」



上演も大人気。お茶運び人形を披露していただきました。人形が持った茶たぐに茶碗を載せるとお客さんの居るところまで運びます。空になった茶碗を茶たぐに返すと踵を返して戻っていきます。中の仕掛けも見せていただき、びっくり感心して、何度でも見たくなります。2回上演の予定でしたが、3回目もアンコールで見せていただきました。楽しい時間はあっという間に過ぎていきました。

**次回は10月17日（火）「スポーツの秋」「健康の秋」をテーマに行います。**

皆さんまた来てくださいね。



まつり飾りをみんなで準備



屋台は、  
どこも大賑わい



最年少参加  
者によるす  
いか割り



## 第5回さんしょう運営推進会議を開催

8月22日、9名の参加で開催されました。7月は28名(定員29名)の利用者、平均介護度は全国平均より低い2.93になっていますが、医療必要度・重介護が必要な利用者も多く、入院・終了などの変動も激しいことが報告されました。新規利用者では、緩和ケアを選択し本人・家族も自宅の雰囲気に近いさんしょうの利用を希望して退院してきた方、自宅生活へ戻る準備のために宿泊を利用する方、大規模施設から家庭的な雰囲気のなかで療養したいと移ってこられた方などがいらっしやることが報告されました。運営推進会議委員の皆さんによる初披露「外部評価」の事前で1カ月遅らせていただくことになりました。

委員の皆さんからは、「ひとり一人が大事にされ、温かい雰囲気が良い」「地域に支えられ、地域に開かれた事業づくりの経営姿勢と努力がわかる」「日野原先生の生き方教室の学習会が、とても良かった。友人にも学習会を紹介したい」などのご意見がありました。

ご参加ありがとうございました。

### シリーズ・『いまと昔の物語』から見た 河原塚の風景いろいろ...①

## のどかな農村だった



4年間にわたった河原塚史編纂事業は、昨年12月、最後の町会回覧と冊子の発行をもって完了しました。これを通して見える河原塚の風景を、何回かにわたって見ていきたいと思います。

河原塚は、現在は約2,600世帯、6,000人が住む、東京のベッドタウンですが、もともとは農村でした。明治5年の世帯数は24戸173人、昭和6年でも30戸、195人。59年間でわずか6戸22人しか増えていません。隣の東京では、明治以降、人口が増えて急速な都市化がすすんでいたのに、河原塚はまるで時計が止まったような、変化のない時代が続いていました。

松戸市域では、大昔からいくつかの争いがありました。鎌倉時代から戦国時代へと続く戦乱のなかで、小金に城を構えた高城ら名高い武将が現れました。そして東漸寺近くでの「行人台の争い」、いま聖徳大学がある付近での「相模台の合戦」、下矢切を舞台にした「国府台の合戦」などが繰り返されました。

しかし、河原塚が戦の舞台になったとか、巻き込まれたという記録はありません。

春木川は一昔前まで清流で、タナゴやシジミがいました。台地ではいたるところにユリの花が咲き、秋にはクリやマツタケ、ハツタケがとれました。

(河原塚史編纂委員会幹事・内中偉雄)

## 新任所長・職責者のごあいさつ

人事異動により、9月から所長・職責者を務める新任者のあいさつです。よろしくお願いいたします。

### あんず訪問看護ステーション所長 大塚かすみ

「さんしょう」所長を経て、訪問看護の所長に戻らせて頂くことになりました。家で暮らし続けるための支援を待っている方々がたくさんいらっしゃることを実感しています。またサービスを何も利用していない人もたくさんいます。家で暮らし続けたい方々により多く関わり、さんしょう利用をはじめ幸樹会のなかの一体的運営に習熟し、他の事業所と連携して、安心できる地域づくりに貢献していきたいと思っています。



### 看多機さんしょう所長 岡本健吾

「さんしょう」は、「あんず訪問看護ステーション」や「からたち薬局」と併設しており、かつ、協力病院の三和病院さんが目の前ということもあって、医学的管理を必要とされる方に多数ご利用頂いております。その特徴を活かし、これからも、在宅療養が必要な方々を積極的に受け入れ、最期まで「自宅で暮らし続けられる」事を支援してまいります。



### ケアステーションゆず所長 浅尾いずみ

これまで看多機と訪問介護にて利用者の皆様と過ごすなかで、「大切な自宅に入れていただき、信頼されて生活・介護を委ねられている。生活の一部にさせていただいている」責任を強く感じます。幸樹会ならではの他職種連携に支えられながら「離れて住む自分の親をお世話する気持ち」で毎日の訪問にあたります。より一層の御指導と応援をお願い致します。



### さんしょう看護主任 南雲朋子

看護師になり、20年以上になりますが、まだまだ未熟者です。スタッフはもちろん、利用者の皆さん、その家族、地域の方々に協力を得ながら、皆さんに安心して頼られる事業所になるよう、努力していきたいと思っています。



## 八柱学習会（定期勉強会）

●前回報告 8月18日（金）。助言者 武井幸穂氏

テーマ：看取りケア⑦

日野原重明『生き方教室』から

参加者 16名、職員以外に近隣、他事業所、高校生の方々8名にご参加いただき、7月に105歳で大往生を遂げられた聖路加国際病院名誉院長・日野原重明先生の『生き方教室』（日経ビジネス）を読みました。

日野原先生は、90歳になった時、「新しいことを創めたい」と「新老人の会」を立ち上げました。国民的運動めざして現在全国に45か所の支部があるそうです。「老人には生き生きと生きる権利と、自分たちにできることをやる使命があります。周りから何かをしてもらうだけでなく、自ら行動する」ことを目的とする新老人の会のモットーは、「愛し愛されること」「創めること」「耐えること」。なかでも「創めること」が一番大事と。自らも、101歳の時に『わくわくフェイスブックのすすめ』という本を書き、103歳の時には「初めて馬に乗り、天下を取った気分」に。104歳の誕生日には100歳からは創めた俳句104つ収めた句集を出版。その活力とエネルギーには驚かされるばかりです。

「日本の憲法と聖書には同じ精神が流れています」「安保関連法には反対です。憲法と正反対のことをしていると考えるからです」「実際に戦争を体験した我々は、その悲惨さを語り継ぎ、いのちの尊さを次の世代に伝えなければなりません」と言う日野原先生は、「いのちの授業」と題して全国の小学校を回ってきました。「教室に入ったら、まず聴診器で友達の心臓の音を聞かせます。そして『心臓は血液を全身に送る機械であって、いのちではありません』と教えます。ではいのちとは何か。私は『それは君たち一人一人に与えられた時間のことだ』と答えます」「そして『今は自分の時間を自分のために使っている。でも大人になったら、いつか他人のために時間を使ってください』とお願いするのは。他人の価値観や尊厳を否定するという意味において、いじめと戦争は同じ。互いに許し合えば、平和がやってくるはずです。」

「私にはミッションがありますから、疲れている暇などないのです。前進、前進、前進です」と語る日野原先生の言葉には、しょっちゅう疲れたり、悲観したりする我々への励ましと助言が溢れています。

●次回学習会予定（定例日：毎月第3金曜日）

日時：9月15日（金）18：30～19：30

テーマ：看取りケア⑧

NHKスペシャル『人生の終い方』を視聴する

\*場所：幸樹会館2階 \*参加自由



今月の屋上太陽光発電量は…

1,033 kWh

幸樹会館電力使用量 4845kWh 自給率 21.3%